

世田谷キャンパス 新10号館

2期工事部分

の巻



遂に全容を現した理工学系教育研究の最重要施設

2024年7月の2期工事竣工により、世田谷キャンパスの新10号館は全ての工事が完了。これにより、フレキシビリティとオープンラボをコンセプトとする新10号館が真の姿を現しました。2期工事の概要や、それにより加わった新たな見所などをご紹介いたします。

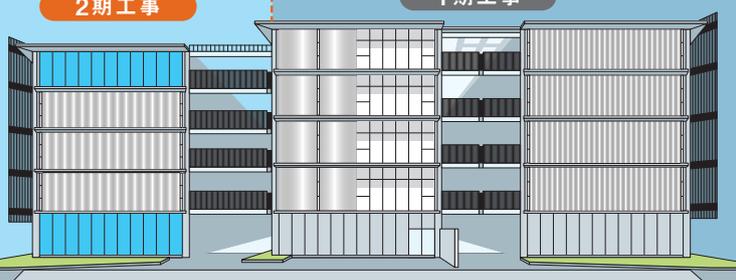


“開かれた実験研究棟”
の2期工事部分が完成

創立100周年に向けたキャンパス再整備時事業の一環として建設された世田谷キャンパスの新10号館は、理工学系の6つの学科が共生する新たな実験研究棟です。工事は既存の施設から引っ越しを行う関係から、1期と2期に分けて進められ、1期工事の2棟は2022年8月に竣工。続く2024年7月の2期工事竣工により、3つの棟が渡り廊下でつながる一体施設が遂に完成しました。すでに1期側の2棟には各学科の研究室および実験室が入っていましたが、2期側の新棟には実験室等に大きなスペースが与えられたほか、学生たちが自由に使えるフリースペースも1階と5階に確保。今回2期工事部分をご案内いただいた写真のお三方も「今後、各学科の交流と相互刺激がますます促進されるはず」と胸を張ります。

2024年7月竣工!
2期工事

2022年8月竣工
1期工事



東京都市大学
事務部門 施設部施設課
有賀丈雄 さん



株式会社東急設計コンサルタント
建築設計本部 第2設計室 チーフマネージャー
白須万寛 さん



株式会社東急設計コンサルタント
建築設計本部 第2設計室 マネージャー
渡邊健由 さん

新しい研究に
フレキシブルに対応
する新棟

2期工事で追加された新棟は、新しい研究にフレキシブルに対応可能な研究・実験スペースを備えています。現状では、1階の実験室は都市工学科が構造実験に使用。床部分を建物全体と分離した設計にしておき、実験装置を使っても、振動が周囲に伝わらない様に設計されています。2階の実験室は高電圧エリアとなっており、電気電子通信工学科が高電圧実験に用いる装置が設置されています。



1階 構造実験室

構造実験を行なったときの振動が伝わらないよう、床部分を建物と分離した設計になっています。可動式クレーンを設置し、重い試験体の搬入に対応しています。



2階 高電圧エリア

2階の実験室には高電圧を発生する装置があります。学園祭などのときに来場者が見学できるように、新10号館の実験室は窓が大きいのも特徴です。